

# 福島原発収束が無ければ、 原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

共同通信 編集委員・論説委員  
渡部 道雄



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 1. 東京電力福島第1原発の処理工程を早期に立てよ

事故から2年半以上経過しているのに東電福島第1原発の1号機～3号機でメルトダウンして溶け落ちた核燃料の実態と把握、取り出す行程は全く見通しが立っていない。国が先頭に立って、国内外の専門家の英知を結集して解決に当たる時期なのではないか。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 2. 原発汚染水は完全に封じ込めよ

原発汚染水問題は、海洋汚染の恐れから海外からの批判も大きい。2020年東京五輪・パラリンピック招致で安倍首相が国際的に約束したように、政府が主導して完全に封じ込めるべきだ。

## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 3. 除染を進めよ、線量高ければ再除染も

原発避難指示区域の除染が進んでいない。放射性物質を含む土砂や植物の葉などの仮置き場が確保できていないためだ。早急に仮置き場を確保して、除染を進めてほしい。線量が強い土地で地元の要望が強いなら、再除染も積極的に実施してほしい。

## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 【実家は除染の実験場】

- 私は、1959年に福島県南相馬市(旧原町市)の大甕(おおみか)地区という農村に生まれ、高校卒業まで実家で過ごした。実家は長兄(66歳)が継ぎ、4・5ヘクタールの稲作農家をしていた。
- 実家は、東京電力福島第1原発からちょうど20キロ地点にある。太平洋からは1・5キロの距離にある。近くの家は津波に襲われ何人もの死者が出たが、実家には、幸運にもわずかの差で津波には襲われなかった。
- 長兄は、福島第1原発で事故が発生した2011年3月12日から家族(私の母と長兄夫婦、3番目の娘)を自動車に乗せて避難。福島県相馬市、宮城県丸森町、山形県天童市、栃木県日光市、群馬県前橋市、と転々として1年半、避難生活を続け、昨年5月に南相馬市の実家へ帰った。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

実家の前には、数十ヘクタールの田んぼが広がるが、放射性物質が降り、この3年間、稲作は不可能になっている。  
今年、長兄が実験的にゼオライトを撒いた田んぼ10アール（1反）で稲作をしている。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

収穫後に放射線量を測る。

他の田んぼは、厚さ10センチ分の土地をはがせば、除染は終了できるが、除染はあまり進んでいない。廃棄物の置き場を確保できないためだ。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

実家の屋根の瓦の除染が進まないで、屋根の素材を全部換えたら、放射線量が0.2マイクロシーベルト下がったという。

家の壁は酢で洗って、高圧水で流したら、放射線量が劇的に落ちた。  
長兄「わが家はこれからも除染の実験場だ。  
とても今後、人の住むところではない」





## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

実家の後ろにある大甕小学校通学路、校舎、校庭含め、徹底的に除染された。しかし児童は3分の1に減った。親が子どもの被爆を心配しているのと、親の仕事が無くなり移住したため。



集落には子どもの声は  
無くなり、高齢者ばかりの  
限界集落」となっていた。

## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

- 実家の前に広がる水田は、実家の10アールの実験栽培以外、植物の栽培はないが、早朝からあちらこちらで農作業していた。田んぼは、トラクターで耕されていたが、これは放置しておくとも雑草が生え茂るほか、木が根を伸ばして大きくなり、後に田んぼとしての機能を回復するのが大変なため。
- 仕事がなく、時間をもてあましている人が多いためでもある。

## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 【汚染水流出で大きく落胆】

山から地下水が流れていて、汚染水問題が大きくなることを承知の上で、ボルトでねじを締めるタンク設置など素人の仕事である。

東電には原子炉専門家はいるだろうが、環境の中に放射性物質が放散された場合の専門家も、原発事故に強い専門家もないため、場当たりの対応が続いている。もう対応は限界にきている。

汚染水、原発事故処理、廃炉を東電任せにした点に、地元、日本中の不信感が募っている。これでは交通事故の事故処理や原因究明を事故の当事者に任せるようなもの。国が完全に主導して、国内外の専門家の知恵を総動員して対処するべき段階に来ているのではないか。

## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

そもそも「原子力損害の賠償に関する法律」では「異常に巨大な天災地変または社会的混乱」による損害に関しては、原子力事業者の損害賠償責任を免じていたのに、2011年4月に、枝野幸男官房長官（当時）が「免責条項は適用されない」と語ったため、今日の状況に至った。法律をどう解釈しても本来、東電は賠償責任を負わなくてよかった。枝野長官がそう発言したのは、時の政権の責任逃れそのもの。つまり、事故の責任を完全に東電に負わせるため。

その結果、2012年度の東電の依願退職者は710人に達し、その後も人材流出は止まっていない。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 【福島県民の思い】

1. 福島県では、東京電力福島第1原発事故や津波の影響で今も14万7000人(8月時点)もの人々が県内(9万4600人)、県外(5万2200人)へ避難している。先の見えない生活への不安。目に見えない放射線への不安。長期避難疲れなどが重なり、ストレスがたまっている。
2. 福島県の人々からは東電を許す話はまったく出てこない。
3. そうした中、東京電力が福島第2原発の廃炉方針を示さないことに、不信感を募らせている。
4. 福島原発事故に対し、原発事故に至らしめた者が、誰も責任を取っていない現状に福島の人々は苛立ちを感じている。  
特に経産省幹部や東電幹部の誰も逮捕されていない点。  
第2次世界大戦の戦争責任を日本が自国で検証していない点と同じ構造的問題。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 【原発の新しい規制基準への評価】

- ・原子炉格納容器へのフィルター付きベント設置  
(加水型は5年猶予)
- ・電気ケーブルに難燃性素材使用
- ・最大級の津波に耐えうる防潮堤設置
- ・サイバーテロ対策
- ・複数から外部電源を確保、移動式発電車を設置など全電源停止などの過酷事故への対策

など、国際原子力機関(IAEA)の指針に沿った内容で、安全性確保のために世界最高水準の実施内容でほぼ妥当だと思う。



## 福島原発収束が無ければ、原発への信頼回復はない 福島出身の視点から～

### 【規制態勢の問題点】

- ・原発の運転時間は基本的に40年とされたが、認可を取ればさらに20年延長できるとして抜け穴を用意した点。老朽原発は、それだけリスクが高く、立地した地元の人々は40年超の運転に不安を持つ。それぐらいなら、リプレイスの方が安心。
- ・原発再稼働へ向け安全審査の申請があった原発の審査では、恣意性を排除し、厳しく審査するよう求める。科学的判断と根拠を国民に示し、審査過程も透明性を確保すべき。
- ・原子力規制委員会がずっと、独立性を保ち、5人の委員が公正な人選が今後も継続できるかにも疑念も残る。